



滋賀県のCO₂ネットゼロ社会づくりについて 滋賀県総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課

1. はじめに

地球温暖化が叫ばれて久しいですが、今年の6月は比較的涼しく過ごしやすい気候でした。しかし、7月には最高気温35℃を超える日が何日も続き、地球温暖化の影響を肌で感じて危機感を覚えた方もいらっしゃると思います。実際、県内(彦根)の年平均気温は、100年あたり約1.5℃の割合で上昇しているというデータもあり、地球温暖化対策は喫緊の課題です。

さて、皆さんは「CO₂ネットゼロ」という言葉をご存じでしょうか。地球温暖化の原因となるCO₂(二酸化炭素)をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、全体として排出量を実質ゼロにすることです。滋賀県では、2050年CO₂ネットゼロ達成を目指し、国に先立つ令和2年1月に「しがCO₂ ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言を行い、行政のみならず、県民、企業、団体等が一丸となって、CO₂ネットゼロに向けた取組を進めているところです。その取組を進めるにあたっての目標値や指針を定めたものが、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」です。

2. 滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画の改定

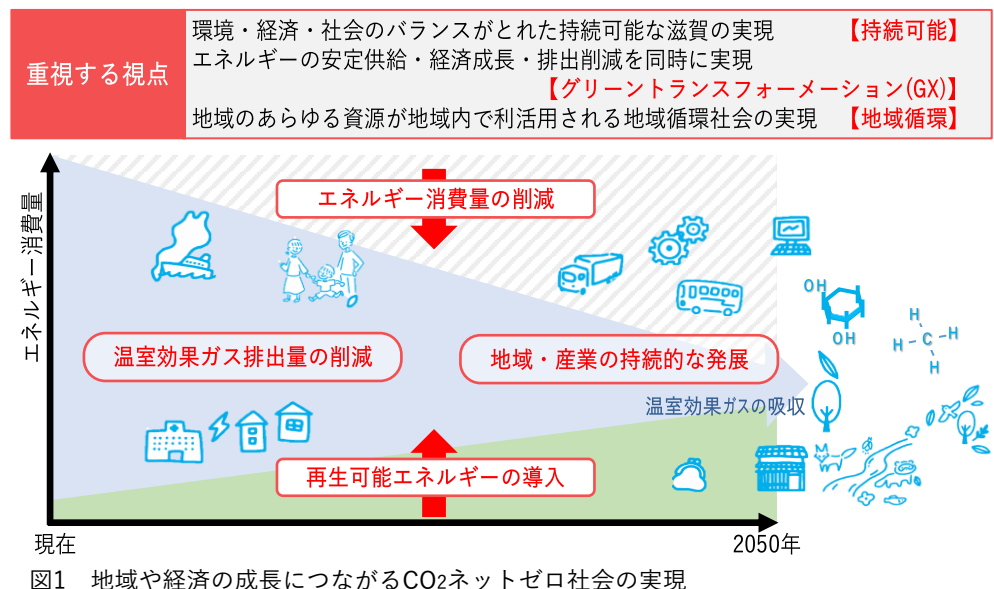
「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」(以下、推進計画)は、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」とともに、令和3年度に策定(制定)しました。

令和7年2月、国の地球温暖化対策計画や第7次エネルギー基本計画が改定され、2040年度までの温室効果ガス排出量の削減目標等が示されたことを受けて、滋賀県においても、長期的にCO₂ネットゼロ社会づくりを着実に推進するため推進計画の見直しを行い、令和8年3月に改定を行いました。

3. 推進計画の内容及改定のポイント

(1) 基本方針

CO₂を含む温室効果ガス排出量の削減のみを目指すのではなく、①持続可能、②グリーントランスマーシェン(GX)、③地域循環の3つの視点を重視し、CO₂ネットゼロの実現に向けた取組によって、地域や産業の持続的な発展にもつながる「CO₂ネットゼロ社会」の実現を目指します。(図1)



(2) 計画期間

当初の令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの10年間という期間を延伸し、令和22年度(2040年度)までの20年間としています。

(3) 温室効果ガス排出量削減目標

温室効果ガス削減目標を定めており、2013年度比で2030年に50%削減という従来の目標に加え、2035年度に65%削減、2040年度に79%削減という目標を新たに設定しました。これらの目標は国より高く、意欲的な目標を掲げています。(図2)

(4) 再生可能エネルギー導入目標

再生可能エネルギー導入目標は、2035年度、2040年度目標を追加し、また、国の第7次エネルギー基本計画と同じく、一定の幅を持たせた目標値に改めています。2019年度比で2040年度に2.3倍～3.0倍の導入量を目標に、地域と調和した再生可能エネルギーの導入を目指しています。(図3)

(5) 重点取組と8つの柱

目標達成に向けて、今回新たに「3つの重点取組」+「適応策」を掲げており、これらの取組を推進することにより、脱炭素の加速化を図ります。また、「地域づくり」「人づくり」「社会

経済活動」など、様々な取組によって、地域課題の解決や地域の活性化が実現するCO₂ネットゼロ社会を目指して、その取り組む内容について「8つの柱」を掲げています。(図4、5)

4. CO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組

滋賀県では、推進計画に基づいて、CO₂ネットゼロ社会の実現に向けた取組を進めています。(図6)

上述の重点取組を例に挙げると、太陽光発電設備などの再エネ設備・空調設備などの省エネ設備の導入支援や、高断熱・省エネ・再エネ設備が備わったZEHの導入支援、サプライチェーンの脱炭素化などを実施しており、家庭・企業ともに再エネ導入や省エネ推進について支援しています。

また、県施設におけるペロブスカイト太陽電池の率先導入や水素社会づくりの推進、地域活性化につながる新技術開発・実装などに取り組んでおり、経済活動と脱炭素化の両立を図りながら、イノベーションの創出を推進していきます。

さらに、CO₂固定コンクリートの実証導入や琵琶湖資源を活用した温室効果ガス吸収の可能性調査など、CO₂の吸収源確保・維持にも取り組んでいます。

CO₂の削減・吸収に向けた取組だけでなく、すでに起こっている気候変動の影響への対策、いわゆる「適応策」も進めています。高温に耐性のある近江米の作付推進や、熱中症対策の啓発活動など、今後を見据えて気候変動リスクに対処していくことが求められています。

温室効果ガス
排出削減目標

2013年度 1,422万t-CO₂
⇒ 2040年度 299万t-CO₂ (▲79%)

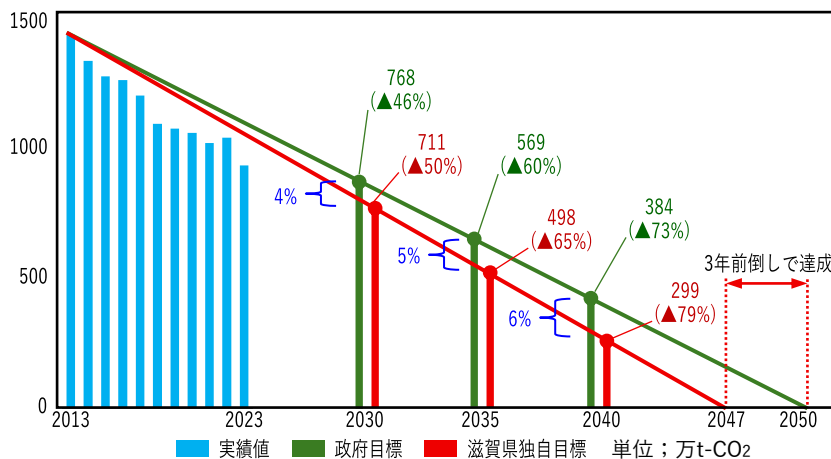


図2 温室効果ガス排出量削減目標

再エネ導入目標

2019年度 84.9万kW(実績)
⇒ 2040年度 191.1～252.0万kW

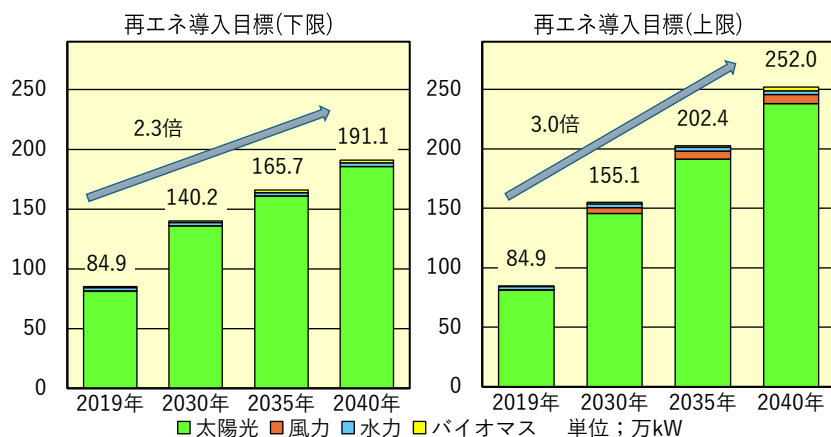


図3 再生可能エネルギー導入目標

重点取組①

再エネ導入・省エネ推進

重点取組②

イノベーションの創出

重点取組③

吸収源の確保・維持



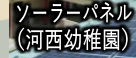
適応策

図4 3つの重点取組と適応策

CO₂を排出しない社会づくり

第1. CO₂ネットゼロにつながる
快適なライフスタイルへの転換
省エネ住宅の普及、再エネの導入
次世代自動車等の普及 など

家庭



まち
づくり

環境こだわり農産物

普及
啓発

第2. 自然環境と調和する
CO₂を排出しない地域づくり
事業活動の省エネ化再エネ導入、過度に自動車に依存しないまちづくり
林業の成長産業化、持続可能な農業の拡大 など

研究

第5. 革新的なイノベーションの創出
水素エネルギー利活用の促進
エネルギー分野の専門人材育成 など

第6. CO₂ネットゼロ社会に向けた
ムーブメントの創出と行動変容
しがCO₂ネットゼロムーブメントの拡大、
MLGsの推進、環境学習、子ども・若者との連携 など

地域内
循環

第4. 資源の地域内循環による
地域の活性化
エネルギーや農林水産物の地産地消
廃棄物の発生抑制・有効利用 など

第7. 気候変動への適応
気候変動に強い産業等の育成
県民のリスクへの備え など

適応策

第3. 新たな価値を生み出し
競争力のある産業の創出
CO₂ネットゼロ産業の振興
グリーン投資の拡大 など

新産業
の創出

第8. 県における率先実施
公共施設の省エネ化の推進
公用車の電動化の推進
購入電力のグリーン化 など

地域・経済の活性化

図5 8つの柱

5. CO₂ネットゼロ社会を目指して

2050年CO₂ネットゼロの実現に向けた取組を通じて、地域の持続的な発展をも実現する「CO₂ネットゼロ社会づくり」を推進し、より豊かな滋賀を次の世代に引き継いでいくためには、一人ひとりがCO₂ネットゼロについて知り、「自分ごと」と捉えて行動していくことが大切です。CO₂ネットゼロ社会の実現に向けて、皆で一緒に取り組んでいきましょう。

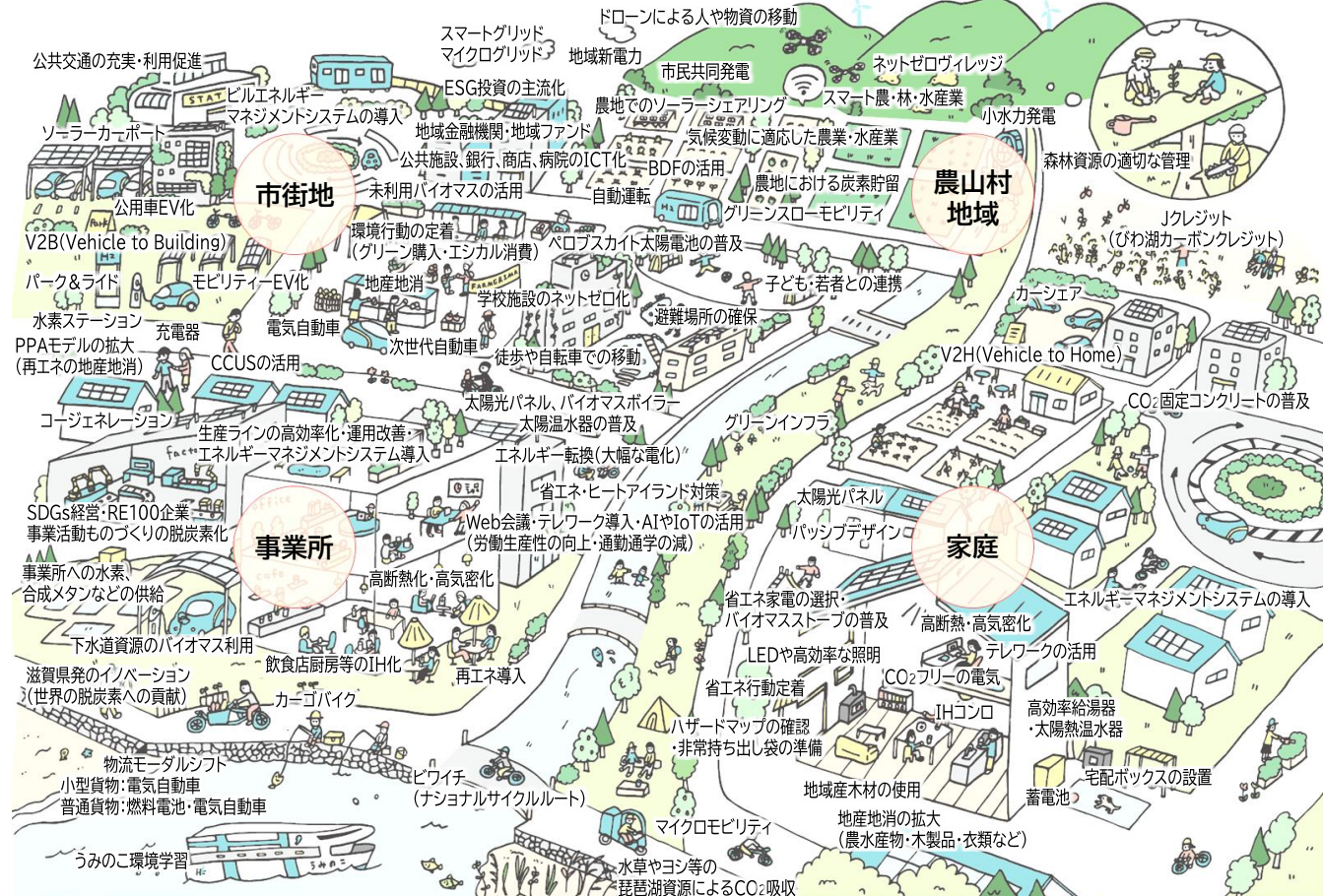


図6 2050年CO₂ネットゼロを達成した滋賀県の姿

□ イベント案内 10月～12月

参加ご希望の方は、開催日の10日前までに下記までお申し込みください。

対象 地球温暖化NOW!・おおつ市民環境塾；一般市民 自然家族事業；4歳～小学生の児童とその保護者
問い合わせ先 ☎ 077-526-7545 ✉ info@otsu.ondanka.net 申込フォームはこちら▶▶▶



10月3日

10月3日(土) 9:30～12:30 オーパル (JRおごと温泉駅から東へ1.2km) 小雨決行

自然家族事業 びわ湖の日②「カヌー体験と生きもの観察」 参加費 大人1000円 子ども500円
親子でカヌーをこいだり、プランクトンを観察(幼児は貝ひろい)したりします



10月23日

10月10日(土) 14:00～16:00 平野コミュニティセンター (JR・京阪膳所駅から東へ250m)

地球温暖化NOW! 講演「私たちは地球温暖化にどう向き合っていくべきか」 参加費無料
講師 立命館大学経済学部教授 島田幸司氏 オンライン参加可

10月23日(金) 10:00～12:00 東レ株式会社滋賀事業場正門前集合 (JR・京阪石山駅から南西へ500m)

おおつ市民環境塾講座7 見学・講演「大津の環境先進企業訪問」 参加費無料
革新技术・先端素材で持続可能な社会を目指す東レ株式会社を訪問



11月14日

11月7日(土) 10:00～12:00 堅田駅西口集合・本堅田付近の社寺林を巡る 小雨決行・予備日11/21

おおつ市民環境塾講座8 体験学習「秋の自然観察会」 参加費無料

びわこ成蹊スポーツ大学准教授中川宏治氏の案内で社寺林の樹木の構成と生態学的な魅力にふれる

11月14日(土) 10:00～12:00 瀬田公園体育館前集合 (JR瀬田駅から南東へ1.8km)

自然家族事業 里山の日②「ドングリをひろってあそぼう」 参加費無料

里山の実りを使って人形やリースをつくったりコマ回しをしたりしましょう



12月13日

12月13日(日) 10:00～14:00 平野コミュニティセンター (JR・京阪膳所駅から東へ250m)

おおつ市民環境塾講座9 体験学習「エコで得しておいしく食べよう」 参加費500円

環境にやさしい食材や調理法で簡単ながらバラエティー豊かな料理を作ります

□ 開催した一般参加イベントの報告 ～7月11日

5月23日 自然家族事業 里山の日①
オタマジャクシとあそぼう



於春日山公園 参加13家族33人

泥んこになりながら生き物を探し自然に親しむ

5月30日 おおつ市民環境塾講座2
新しい中消防署施設見学・研修



於中消防署 参加70人

消火・水圧・煙の体験と感震ブレイカー実演・庁舎の見学

6月6日 自然家族事業 川の日①
すごいぞ！大宮川の生きものたち



於日吉大社境内 参加10家族30人

採集した生き物とバックテストから川のきれいさを確認

6月18日 おおつ市民環境塾講座3
北部クリーンセンター施設見学



於北部クリーンセンター 参加25人

ごみ焼却施設、焼却熱利用発電設備、リサイクル施設を見学し最終処分場も訪問

7月2日 おおつ市民環境塾講座4
気候変動と防災



於ふれあいプラザ 参加32人

おおつ環境フォーラム西山克己氏による気候変動の概要と多方面にわたる影響、それに対する省エネなど緩和策と適応策、特に防災対応についての講演

7月11日 自然家族事業 川の日②
大石川たんけん



於大石緑地スポーツ村 参加10家族32人

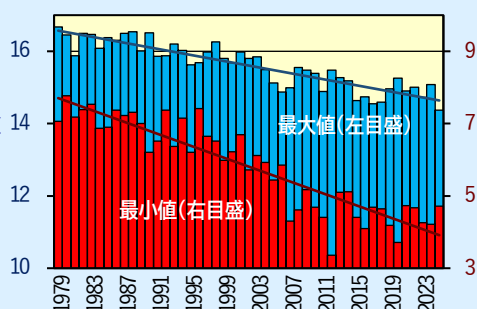
採集した生き物の種類と数から川のきれいさを確認

上記各イベントの詳細は <https://otsu.ondanka.net/> または <https://eco-otsu.net/> をご覧ください

データで見る
温暖化②⑥

北極域の海氷面積
1979-2025
単位：百万km²

気象庁HPをもとに作図



発行

大津市地球温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム)
520-0047大津市浜大津4-1-1明日都浜大津4F
Tel : 077-526-7545

E-mail : info@otsu.ondanka.net

HP : <https://otsu.ondanka.net/>

編集責任：西山 克己

